1963年9月20日　第3種郵便物許可（毎月一日発行）

福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年標語
감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年、希望の百年
（데살로니가전서 5:18）

2014年12月1日（月）　第736号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398
発行人／趙重來・編集人／金柄鎬
fukuinshinbun@kccj.jp（福音新聞）
shinacho2003@daum.net（担当者）

2014年　聖誕節メッセージ

クリスマスの第一発見者

ルカによる福音書2：8～12　　中江洋一牧師（西南地方会長、広島教会）

クリスマスは、誰のためのものなのでしょう？

クリスマスって、全世界の救い主がお生まれになったってことですから、それこそ大きな出来事です。それが最初に誰に伝えられ、誰がそれを発見したのかが、大きな意味を持っております。

だって、私たちも何か嬉しいことがあったとき、あるいは悲しいことがあった場合でも、それを一番最初に伝えたい人、一番最初に見てもらいたい人、一番最初に駆けつけてきてほしい人がいると思います。一番大事な人に、一緒に喜んでほしい人に、最初に伝えたい、自分に起こったことの第一発見者になってほしい。それはごく当たり前の感情です。

ましてやこのクリスマスに起こっていることは、新しい命の誕生です。私が親になった時もそうでしたけれども、その新しい命の誕生を、これはやっぱり一番大切な人に、一番それを喜んでほしい人に、最初に伝えたいのです。

神さまにも主イエスの誕生を最初に伝えたい、生まれたばかりの主イエスの姿を最初に見せたいと、そう思う人がおりました。それがクリスマスの第一発見者たちです。

マタイによる福音書の第一発見者というのは、遙か遠い東の方から来た学者たちでした。

彼ら学者たちの一番の特徴は、彼らが外国人であったということです。イエスさまの母マリアや父ヨセフもビックリしたと思います。「誰なんですかこの人たちは？」という感じです。目の前にいる学者たちは、もう完全に外国人なわけです。言葉もちゃんと通じたかどうか分かりません。マリアとヨセフにとって彼らのような外国人を見るのは、たぶん生まれて初めてです。それがいきなり出産の現場に来る。そしてその学者たちは、これもおそらく見たこともないような、黄金、乳香、もつ薬を差し出して、生まれたばかりの赤ん坊に向かってひれ伏すわけです。当時のユダヤ人たちは、外国人は救われない。自分たちが信じている神さまとは関係がない、と思っていました。しかし目の前で、まさにそういう人たちが神さまを礼拝しているのです。誰も想像だにしなかった第一発見者です。

そしてここに、イエス・キリストの誕生の意味や目指しているものが示されています。主イエスの誕生は、遙か地の果てを目指し、そしてそこに届いていたのです。

また、**ルカによる福音書にも第一発見者**がいます。それは羊飼いたちでした。

草を求めて四六時中、野原を絶えずさまようのが、彼らの生活でした。安息日を守ること、会堂へ行って神さまを礼拝しに行くというのが、ユダヤ人の社会生活の常識であり中心でした。それができない羊飼いたちは、社会からはじき出されていました。

そして当然、彼らは神さまとも無縁でした。貧しさゆえに供え物も捧げられない彼らは、かえって神さまを侮辱する罪人だとして、人々から軽蔑されていました。人々からも神さまからも捨てられていたのが、彼らでした。

けれどもその彼らに、ルカによる福音書では、一番最初にイエス・キリストの誕生のニュースが知らされました。天使は羊飼いたちに現れて言いました。「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」

これを聞いた羊飼いたちは急いで馬小屋の、その飼い葉桶に寝かされている赤ん坊のもとに駆けつけました。ほこりまみれの羊飼いたちが、どやどやとやってくる。そして、イエスさまを見て、天使の言った通りだったと言い合っている。マリアとヨセフの夫婦は、思わずキョトンとしていたと思います。

けれども、羊飼いたちのテンションは高かった。彼らは喜んで帰って行きました。だって、彼らは神さまとは無縁の存在だったのに神さまは見捨てていなかったのです。ちゃんと見ていてくださいました。あなたがたのための救いがここにあると、あなたを救うための救い主がここに生まれたのだということを、神さまは彼らに確かに見せてくださったのです。

この二種類の人たちを第一発見者とすべく、そこを目指して、実はクリスマスは起こりました。クリスマスが目指しているターゲットは、この第一発見者たちです。そして、私たちもこのクリスマスの第一発見者になれるのです。

皆さん、神さまは、クリスマスの祝福を皆さんお一人お一人にも、伝えようとされています。

だからこそ、この私たちも、神さまの御言葉を聞いて、クリスマスは自分のためにあったんだと喜ぶことができるのです。

マラナタ！

＜関西地方会・UCCJ大阪地区＞ 宣教協約締結30周年記念集会

9月28日（主日）午後3時から、在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協約締結30周年を記念して、「KCCJ関西地方会・UCCJ大阪地区」との合同礼拝が、大阪教会で開催された。

この合同礼拝は、奏楽者、司会者、聖餐司式、聖書朗読、聖餐奉仕者などを両教団から奉仕者を出し合い、共に礼拝の恵みを分かち合った。一木千鶴子牧師（高石教会）の司式で、関西地方聖歌隊連合会の特別讃美の後、館山英夫牧師が「幸あれ、主を畏れる人」という題で説教した。

館山牧師は、説教の中で、両教団のこれまでの宣教協力の歩みを振り返りながら、今日の日本の社会問題になっているヘイトスピーチに見られる排外的差別行為に対する日本側の責任を語った。

引き続き、証しの時間では、辛基一執事（堺教会）が、在日2世として大阪で過ごした教会生活について述べた。その後、金必順牧師（関西地方会会長、堺教会）の司式で聖餐式を執り行った後、梁炯春牧師（引退牧師）が祝祷をして礼拝を終えた。

礼拝後は、関西地方会の行事である「御言葉と讃美のフェスティバル」で優勝した平野教会の聖歌隊による特別讃美を聞きながら交わりの時間を持った。

参加者は190名を超え、日韓教会の今後の交流を通して、宣教協約締結の内実を促進するような盛会となった。

この日の席上献金は、「外国人との共生をめざす関西キリスト教連絡協議会」（外キ連）に渡された。

（報告：金鍾権）

＜関西地方会＞ 京都教会　林明基牧師委任式

◆名誉勧士・執事推戴式も挙行

10月26日（主日）午後4時、京都教会に於いて233名が集い、林明基牧師の牧師委任式、張淑子勧士・許清子執事の名誉推戴式が執り行われた。鄭然元牧師（大阪／臨時堂会長）の司会により、金鍾権牧師（平野）の祈祷、金錦順長老（布施）の聖書奉読、楊炯春牧師（元京都牧師）の説教で礼拝をした。

牧師委任式は、金必順牧師（堺／関西地方会会長）の司式により執り行われ、名誉推戴式は林明基牧師の司式により執り行われた。趙永哲牧師（大阪北部）、全聖三牧師（布施）の勧勉、金柄鎬総幹事、金鐘賢牧師（浪速）、崔粲基長老（釜山平光）、越後屋朗牧師（同志社大学教授）が祝辞を述べた。その後、林明基牧師が「その道を仕え歩む」という答辞をした。最後に金武士牧師（西成）が祝祷をした。

京都教会からは、聖歌隊の讃美、青年会の祝歌と祝いのビデオレターがあった。さらに、張淑子名誉勧士・許清子名誉執事は、京都教会のみならず、関西地方女性会、全国女性会でも多くの奉仕をして来た。今回の委任式と名誉推戴式では、常に来られない方や家族が出席され喜びの式典となった。

（報告：兪正根・尹善博）

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国ＹＭＣＡは皆様と共に歩みます。

東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修（50名）も可能。
・スペースＹホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・ＹＭＣＡ東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】
関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200（宿泊者価格）		

在日本韓国ＹＭＣＡ http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/　＊会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
東京韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター　〒101-0064　東京都千代田区猿楽町2-5-5　☎03-3233-0611
関西韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター　〒537-0025　大阪市東成区中道3-14-15　☎06-6981-0782

＜全国教会女性連合会＞ 東北ボランティア　体験記

体験記Ⅰ、　李恩順（布施教会）

10 月 8 日から 11 日、全国教会女性連合会による東北ボランティアが実施され、６名が参加しました。私は９月に、今回のボランティアの件を知り、広島の土砂災害の直後でもあり、関心を持っていたので、初参加を決めました。

10 月 7 日夜に、仙台に着き、日本基督教団東北地区被災者支援センターエマオ石巻を拠点にして、ボランティア活動をしました。初日はエマオ仙台に寄ってエマオ石巻に行きました。日本基督教団救援対策本部の方針に基づいて運営されているエマオの働きを知り、とても感動しました。エマオ石巻での４日間は祈りで始まり祈りで終わりました。

ボランティアをするに際して、心と体は自分の責任において自己管理が必要ということを教わりました。フィールドワークで行った大川小学校では、津波が来るまでに 50 分あったにもかかわらず避難することなく、校庭で 108 名中 74 名の児童と 13 名中 10 名の教師が亡くなったことを聞きました。やるせなさといたたまれない思いで胸が一杯になりました。リーダーの判断の重要性も痛感しました。

海岸沿いを車で移動しながら、リアス式海岸というこの地方の地形が、入って来た海水の逃げ場をなくしたため被害が大きかったと聞きました。普段は平穏で養殖にも適した環境だったのに、津波によって全滅したのですから、そのむなしさを考えたら黙ってしまうしかありませんでした。どこを訪問しても、直後はがれきでいっぱいだったろうと、ニュース報道を思い出しました。原発がある女川町にも行きました。丘の上の病院の柱、３メートルぐらいの所まで津波が来たそうで、すさまじさを実感しました。倒壊した鉄筋コンクリートのビルは、まだそのままでしたが、それでも復興が比較的に早く進んでいるようでした。

４日間のワークを終え、12 日から 14 日は宮城県と岩手県の沿岸部を移動しながらのフィールドワークをしました。主日には日本キリスト教団・大船渡教会の礼拝に出席し、三陸鉄道にも乗り復興を肌で感じました。また、立石寺（山形県）にて松尾芭蕉の奥の細道に思いを馳せました。

台風の影響も受けることなく、天候にも恵まれ、参加者全員が元気によい体験をすることができました。企画・準備してくださった皆様、現地にてサポートして下さった皆様に感謝いたします。帰阪後、普通の生活に戻っても、東北の話題が聞こえると特別な気持ちになりますし、関心を持ち続けていきたいと思います。

「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから。」（詩編 121: 1～2）

体験記Ⅱ、「小さな経験から」、金順植（堺教会）

ボランティア１日目、昔は商店をしていたという 86 歳の女性の家の掃除をしたときのことです。今は店を閉めて物置がわりに使用している広い空間にはたくさんものがあり、家具や道具などすべてに泥が積もっていました。バケツで掻き出し、雑巾でふき、隅々まで磨きました。ふだん手が回らないところまで、ピカピカにしました。奉仕者の一人が使い物にならなそうないくつかのものをゴミ箱に入れたところ、女性の顔色がサッと変わり、取り出して持って行かれました。

私たちにはゴミに見えても、その方には思い入れのある大切なもの。ボランティアは押し付けではなく、相手を優先し、配慮することの重要なのだと知りました。大地震から３年半以上たちましたが、まだまだ人々の心には消すことのできない傷や寂しさがあることも実感しました。尊い機会が与えられたことに心から感謝しています。

【行程】

- 10/8 フィールドワーク長面浦（ナカズウラ）湾方面
- 10/9 個人宅の泥洗浄（家財道具など）、Mamas 子育て支援センターの補助
- 10/10 午前：岩井田団地、大森仮設住宅周辺の補助、午後：日本ナザレン教団友愛ホーム（学童保育）の補助
- 10/11 仮設住宅にてお茶っこ、エマオ石巻を隅々まで掃除
- 10/12 日キ大船渡教会礼拝出席
- 10/13-14 フィールドワーク（三陸鉄道、山寺など）

豊かな味、豊かな心。
妻家房
SAIKABO
代表取締役 呉 永錫（東京希望キリスト教会 長老）
四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

＜RAIK＞　創立40周年 記念感謝会・記念誌発行

今年は、在日韓国人問題研究所（RAIK）創立40周年にあたる年でもある。第16回KCCJ人権シンポジウム二日目、10月13日の夕方、裵重度名誉長老（川崎教会）が「ＲＡＩＫ14年／川崎市ふれあい館26年から未来世代への提言」と題して特別講演をし、佐藤信行所長が「ＲＡＩＫ40年の歩みと未来への課題」について報告した。

そのあと在日本韓国ＹＭＣＡレストランで、「ＲＡＩＫ創立40年記念感謝会」を行なった。あいにく台風が直撃しようとする会場には、ＲＡＩＫの理事や会員なども駆け付けてくれ、ＲＡＩＫのこれまでの歩みを支えてくださった神さまに、共に感謝した。

1974年2月、東京に創立されたＲＡＩＫは、当初、理事長：呉允台、理事：李仁夏／崔京植／金君植／中嶋正昭／森岡巌／HELEN Postで構成され、実務者として所長：李仁夏、主事：崔勝久／裵重度、事務：金成元が担っていた。そして「民族差別と闘う連絡協議会（民闘連）」、次いでプロテスタント・カトリック11教派・団体と全国9地域の外キ連を網羅する「外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会（外キ協）」の事務局として、ＲＡＩＫは中心的な役割を担ってきた。1988年7月からは『ＲＡＩＫ通信』を創刊し、現在は144号に至る。また1992年2月には、東京弁護士会から「人権賞」を受賞した。

このようなＲＡＩＫの歩みを「在日」の解放後史と重ね、今回、略年表としてまとめた。その記念誌を、『感謝の40年－そして今』と題して上梓した。これは多くの教会、牧師や長老たちの支えによって発行できたものである。

（報告：佐藤信行所長）

「外国人住民基本法」の制定を求める 第29回全国キリスト者集会

●日時：2015年1月31日（土）10時～12時30分

●会場：在日大韓基督教会小倉教会

●主催：外キ協

第一部
◇讃美
◇メッセージ：犬養光博さん（日本基督教団牧師）

第二部（11：00～12：30）
◇特別講演：辛淑玉さん（人材育成コンサルタント）
「ヘイト・スピーチを乗り越える」

＜KCCJ＞ 人権シンポジウム開催

10月12～14日、「外国籍住民の人権とKCCJの宣教」というテーマのもと、社会委員会・KCC・RAIK・西南KCCの主催で、第16回KCCJ人権シンポジウムが開催された。会場の在日本韓国YMCAには、地方会の社会部を中心に23人が参加した。

一日目、総会長の趙重來牧師が開会礼拝で、「あなたも同じようにしなさい」（ルカ10：37）と題して、キリスト者としてなすべき役割と使命について話された。そのあと、鈴木江理子准教授（国士舘大学）が「在日外国人の現在と改定入管法」について、詳細なデータをもとに「多国籍・多民族」化しつつある日本社会の課題を提起された。

二日目、許伯基牧師（関東社会部）が、聖書研究としてマタイ15：21～28を取り上げ、「少数者と出会い、使命を与えられる教会」について話された。それは、今後の宣教について示唆に富む話であった。次いで、李善姫講師（東北大学）が「移住女性の震災体験から問う日本の多民族・多文化共生の課題」と題して、震災前と震災後3年半に及ぶ調査・支援活動から見えてきた課題について提起された。

昼食のあと、在日三世の金哲敏弁護士（東京弁護士会外国人の権利に関する委員会委員長）が「ヘイト・スピーチと在日コリアン」と題して、ヘイト・スピーチとして表出されるデマと扇動、在日に対する社会的・制度的差別の構造を打破していくには、人種差別撤廃条約に基づく国内法が必要であることを力説された。

いずれの講演に対しても、牧会現場からの切実な具体的な質問と意見が出され、活発な議論が交わされた。三日目の全体会では、それらを踏まえて声明文を作成し、採択した。最後に、社会委員長の洪領晃牧師が「命を救う」（マルコ3：1～6）と題して、私たちの使命について力強く話された。

（報告：佐藤信行RAIK所長）

第16回KCCJ人権シンポジウム声明

在日外国人200万人時代を迎えた今、外国籍住民をめぐる法的状況は、悪化の一途をたどっている。日本政府による外国人管理制度は、2009年の入管法改定により、旧植民地出身者とその子孫である特別永住者と、それ以外の外国人である中長期在留者へと二分化して管理されることとなった。特に中長期在留者に対する管理では、住所地変更の届け遅れなど軽微な過失や、「配偶者の身分を有する者としての活動を継続して6ヶ月以上行わない場合」など第三者による客観的な判断が難しい事由をもって、在留資格の取り消しという厳罰を下すことが可能となった。また非正規滞在者については、地方自治体による外国人登録制度の廃止と、法務省による外国人一括管理によって、「この地に存在しない人々」と見なされるようになり、公立学校への受け入れや母子手帳、入院助産、養育医療など、人間として必要最低限の公共サービスからも除外されることになった。さらに政府は、インターネットを用いた不法滞在外国人情報の届け出制度や、外国人雇用状況届け出の義務化など、市民をも動員した管理・監視体制を強化している。これらは、外国人の増加と定住化、日本社会の多民族化という現実が進行しているにもかかわらず、外国人を管理の対象としてみなし続け、対等な社会の構成員と見なさない、日本政府／社会の排外的な姿勢が色濃く表れている。

東日本大震災は、東北に暮らす移住女性たちが抱えてきた諸問題が可視化される機会となった。彼女たちの多くは、仲介型の国際結婚により「嫁不足」の過疎地域に嫁いできた「南北間型結婚」のケースであり、日本語や日本文化の教育の不足なまま、農漁村部の「嫁」という社会的・制度的ジェンダー規範を受け入れながら、不安定な経済的生活基盤の上に暮らしている。大きな年齢差のある夫に代わって家計を支えるケースや、定着を求めるあまり、あえて自分の民族性を捨てて日本名を名乗り、子どもに対しても日本語だけを使うような、強い同化指向に甘んじているケースも頻繁に見られる。これらの問題の解決のために、行政は移住女性たちが十分に利用可能な日本語学習や言語的な支援を保障するべきである。また彼女たちが本来持つ豊かな民族性や文化性を正当に評価し、彼女たちにその土地の文化的／制度的規範ばかりを押しつける構造を脱することの出来る配慮を行い、日本語力の如何にかかわらず、必要な公共サービスにアクセスできるようなシステムを構築することが緊要である。

2000年代中盤から表面化しはじめた在日コリアンや韓国、中国、北朝鮮に対するヘイトスピーチ（差別憎悪扇動）が、近年猛威を振るっている。2000年代前半から、在日コリアンを誹謗中傷する過激な憎悪表現が、インターネット上の俗語として定着しはじめた。これらはネットの世界にとどまらず、2000年代後半から現実社会へと流入をはじめた。特別永住や、社会を構成する外国人市民として当然の権利を「在日特権」とし、これらを在日コリアンから剥奪することを目的とする「在日特権を許さない市民の会（在特会）」をはじめとする排外主義的右翼団体が、大久保(東京)や鶴橋(大阪)などの在日コリアン集住地域や、各都市の繁華街、また朝鮮学校などで、聞くに堪えない差別表現を用いたヘイトデモを繰り返している。国連自由権規約委員会や人種差別撤廃委員会によって、これらの人種差別的状況に対する警告が、再三にわたって送られているが、日本政府は「必要な措置は現行法によって可能であり、『表現の自由』を萎縮させるような措置を講じるほど酷い状態とは思わない」という内容の回答を繰り返すのみである。一方で北朝鮮拉致問題やミサイル試験発射などの外交問題と、それにかかわる「国民感情」を根拠として、地方自治体による朝鮮学校への補助金打ち切りや、朝鮮学校高校無償化差別などの、行政による差別的な施策が行われていることも、看過されてはならない。

外国籍住民をめぐるこれらの状況を認識し、私たちは決意を新たにして以下の行動目標を設定し、その実践に注力することをここに決意する。

1．外国籍住民を社会の構成員と見なさず、犯罪予備軍または有用な使い捨て労働力として管理対象と見なす現行入管法の改正に、キリスト教諸教派・諸団体と協力して取り組む。
2．外国籍住民がこの地で生きていく権利が完全に保障され、外国人と日本人が共に生き、共に生かし合う社会を実現するために、外国人住民基本法の制定運動を継続する。
3．過疎地域の移住女性たちの人権保障と社会適応、住民サービスの適切な享受のために、行政が必要な措置を講じることを求め、またそのサポートのために働く。
4．今日本で繰り広げられているヘイト・スピーチが、「表現の自由」の範囲を大きく逸脱した許されざる人種差別であることを日本政府が認め、国連自由権規約委員会と人種差別撤廃委員会の勧告に従って、人種差別監視機関の設置および人種差別撤廃法の制定を行うことを求めていく。
5．ヘイト・スピーチや行政によるマイノリティ・バッシングなど、日本の人種差別の深刻さを世界の教会・キリスト者と広く共有し、世界のマイノリティと連帯しつつ問題の解決に当たるために、2015年11月に日本にて、世界のキリスト諸教派を招いて第3回「マイノリティ問題と宣教戦略」国際会議を開催する。
6．これらの活動をKCCJが推進していくため、在日韓国人問題研究所(RAIK)の維持と発展に物心両面にわたって協力する。

2014年10月14日

＜関西地方会＞
第5回　サンクス祝祭　開催

10月19日、関西地方会では、女性部・壮年部・青年部が3部共同主催で、第5回「サンクス・フェスティバル」を大阪北部教会で開催した。今年は、特に多くの教会から124人が参加した。

この「サンクス・フェスティバル」は、各個教会では学ぶ機会がなかなか与えられないテーマを決め、地方会レベルで共に学び、主である神さまに、公演の形で心を合わせて讃美を捧げる関西地方会ならではの行事である。

今年は、現在、日本の社会において問題になっている「ヘイトスピーチ」や「それがもたらす在日外国人の現状と人権問題」を学ぶものであった。そのため、横須賀教会の金耿昊執事を招き、講演会を開いた。金執事は、東京大学大学院総合文化研究会博士課程に在籍中で、「在日朝鮮人史」、「社会運動史」を研究しながら様々な活動にも従事している。

第一部では、朴時永牧師（築港教会）が、「キリスト者の生き方」（エフェソ書4:25～29）と題して説教した。第二部で、金執事は「在日の人権・キリスト者としてどのように生きるべきか」という題で、「在日大韓基督教会」はどのような教会なのかという問いから、ヘイトスピーチが示している日本社会の様々な問題を提議した。講演後、このような社会で我々が何をすべきか、何ができるかなどの実践的な課題をめぐる活発な討議が行われた。

その後、オペラ歌手である野田朋香姉妹の公演があり、参加者に感動を与えた。第三部で、各教会の女性会の奉仕によって豊かな軽食バイキングが用意され、交流会をした。

（報告：関西地方会青年部）

＜西南地方会＞　岡山教会
金承熙牧師　委任式

去る10月19日(主日)午後3時30分より、岡山教会にて、金承熙牧師の委任式が執り行われた。

先ず礼拝は、臨時堂会長である韓世一牧師（神戸教会）の司会で、朴斗熙牧師（川西教会）の祈祷後、鄭寿天名誉牧師（西宮教会）が「信仰生活とは」（マルコ8:34～38）という題で説教した。

引き続き、西部地方会会長である中江洋一牧師（広島教会）の司式によって委任式が執り行われた。その後、李聖雨牧師（明石教会）と尹聖哲長老が勧勉をし、総会を代表して金柄鎬牧師（総幹事）、小松茂夫牧師（日本基督教団東中国教区議長）、金性済牧師（副総会長）が祝辞を述べた。

そして、岡山教会聖歌隊による祝歌と河明世執事が祝文・祝電の紹介後、李華順勧士より記念品の贈呈・女性会から花束の贈呈後、金承熙牧師が答辞をした。さらに、河梁守按手執事より来賓の紹介があり、岡山教会を代表して李萬雨名誉執事が挨拶をして、金承熙牧師が祝祷した。

多くの恵みと祝福で満たされた委任式であった。

（報告：金承熙）

＜お詫びと訂正＞

11月号掲載の＜西部地方会女性連合会修養会＞の記事の中で、講演内容と異なる内容を記載し、講師の梁陽日氏（立命館大学生存学研究センター）はじめ関係者のみなさまにご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。なお、総会ホームページには訂正後の内容を記載しています。

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国ＹＭＣＡは皆様と共に歩みます。

東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修（50名）も可能。
・スペースＹホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・ＹＭＣＡ東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】
関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

税　込	平　日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200（宿泊者価格）		

在日本韓国ＹＭＣＡ http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/　＊会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
東京韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター　〒101-0064　東京都千代田区猿楽町2-5-5　☎03-3233-0611
関西韓国ＹＭＣＡアジア青少年センター　〒537-0025　大阪市東成区中道3-14-15　☎06-6981-0782

＜中部地方会＞　青年連合会「集まれ中部連！」開催

11月３日(月)、名古屋教会にて、中部地方会青年連合会(以下、中部連）による「集まれ中部連！」という交流会を開催した。青年 16 名（名古屋７名、豊橋１名、長野３名、大垣２名、大垣福音同盟３名）が参加した。中部連の交流会に初参加した者も多く、これからの青年に期待も多く募るものとなった。

開会礼拝は、この会を提案した崔和植牧師（青年部長、長野教会）が、「わたしたちは一つ」（エフェソ４：３）という題で説教した。その後、会場を移して、自己紹介後、２つのグループに分かれて、３つゲームを行った。

昼食後は、中部連役員が中心となり、「聖書プログラム」「交流ゲーム」の二つのプログラムが行われた。

近年、中部地方の各教会では青年の数が少なく、今までは中部連として交流会を行える状況ではなかった。中部連は「春の合同修養会」を毎年５月に行っているが、交流会は今回が初めての試みだった。

この交流会の開催に向けて、中部連の役員が力を合わせて各教会に声をかけ、広報活動を行った。その結果、予想よりも多くの青年たちが参加したので、これから活気あふれるものになっていくと期待される。

（報告：伊藤直人、中部連書記）

＜総会事務所　年末年始休みのお知らせ＞

2014 年 12 月 29 日（月）2015 年 1 月 5 日（月）

＜ 한국어판 ＞ 복음신문 (12 월호) 에 대한 안내와 감사

2014 년도에도 한국어판 복음신문을 애독 해 주신 독자 여러분에게 진심으로 감사 드립니다. 12 월호는 올해 마지막 기사들을 정리하여 편집한 관계로 한국어 판은 한국 7 교단 선교협의회만 게제 하였습니다. 다른 일본어 기사들에 대한 한국어 기사는 총회 홈페이지에 올려져 있으니 참고하여 애독 해 주시면 감사 드리겠습니다.

올해도 많은 기사들을 보내 주시고 협력과 지도를 많이 해 주셔서 진심으로 감사 드립니다.

즐거운 성탄절 되시고 복된 새해를 맞이 하시기를 간절히 기도합니다.

（복음신문 편집부 올림）

豊かな味、豊かな心。
妻家房
SAIKABO
代表取締役 呉 永錫（東京希望キリスト教会 長老）
四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100